

タイトル	名古屋大学附属図書館蔵小林文庫本『百因縁集』上巻 翻刻
著者	追塩，千尋； OISHIO, Chihiro
引用	北海学園大学人文論集(68)： 326(一)-282(四五)
発行日	2020-03-31

名古屋大学附属図書館蔵小林文庫本『百因縁集』上巻翻刻

追 塩 千 尋
北海道説話文学研究会

名古屋大学附属図書館蔵小林文庫本

『百因縁集』翻刻について

■書誌

所蔵者・文庫番号 37。

請求記号 388.1/H 一冊 写本。

書名 目録題「百因縁集」。

写本 大本（推定）存欠か。上巻のみが存す。

表紙 水色表紙（改装）。

現状は、水色染紙に反古紙で裏打ちし、さらに反古紙を裏返しにした紙を貼り付けて表紙としている。本文の紙とは異なるため、後補と思われる。

装丁 袋綴 五つ目綴じ。

丁数 五十丁 半丁十行二十字。

（文字列の縦横が揃っているので方眼紙のような下敷きを利用したものか）。

各丁、左下部の喉近くに丁付あり。喉の綴じ目に隠れることが多い。

目録丁に「初丁」・「三」・「四十九」・「五十」。本文と同筆か。

用紙 楮紙。

寸法 縦二八・〇、横一九・四（cm）。

奥書 五十丁末尾に巻末書写識語「寛永第十癸酉四月四

日 宮谷談所 書之耳」。

上総国大網村の日蓮宗本国寺宮谷(みやざく)談所に於ける書写本と考えられる。

印記

一丁(目録)喉下部に「本通寺什物」(朱長方印)

墨滅(裏から判読可能)されている。旧蔵者の印記を消去したものである。四行目上欄端に「文・文学」(横書)紫印、同、四・五・六行の上部目録に重ねて「名古屋大学図書館」(篆書)朱角印、同、中央に「名古屋大学図書館・和書」横長楕円朱印と内分中央に算用数字「286178」黒印あり。

五十丁左端喉部に受入のNo17・黒印・昭和拾五年六月□日□□・青印あり

虫損

各丁に虫損はあるが、現状では裏から紙を充てて補修されている。

備考

○所蔵者整理印として一丁一行目上欄に「388.1 H」(鉛筆書き)。

○本文のところに異本注記が見られる。異本注

記は同筆か。詳細は別に記す。

○上部欄外に表題や出典その他を記した部分が見られる。

○裏表紙と見返しの間に挿入紙片あり、「17・8・29」
「¥21」「琳楼閣」などの黒インクペン書き文字あり。本書にかかわるものかは未詳。

○上欄の章段数字の右横、または章段名の上に色紙を貼り付けたものが四例ある。

十三丁裏・赤、三十一丁裏・水色、三十八丁裏・紺、
四十三丁表・同

(文責：林)

■異本注記について

小林文庫本は現存唯一の伝本であるが、この異本注記によって、嘗て小林文庫本以外の異本(二種か)が存在したことがわかる。以下にその様態・特徴を挙げてみる。

1 「イ」の形の異本注記はすべて三十七個。

2 目次のみで本文のない「十七 長者家人物負事」に

関しては、特に異本注記はない。

3 二十丁表まではわずか三個しかない。

四十一丁裏から四十六丁表まで、七丁の間異本注記がない。

それ以外は平均して一丁あたり一つ以上の異本注記がある。

4 書写者の本文に関する見解を示すと思われる「〴〵敷」は二十三個あるが、それらはすべて3の異本注記空白の部分に集中している。

5 「〴〵イ」でも「〴〵敷」でもなくて、本文に関する見解を示す例は三十三丁裏五行目の「買」に注して「置」、同丁8行目「苦」に注して「昔」の例があり、どちらも注記の方に合理性がある。なお、「〴〵イ」「〴〵敷」及びこの二例はすべて本文と同筆と思われる。

6 「〴〵イ」の形でありながら、本文と同字を注記しているのが二十四丁裏三行目、三十三丁表七行目、三十八丁表八行目、五十丁裏六行目、本文の異体字を注記しているのが三十丁裏四行目、四十六丁裏八行目である。

7 6以外では、異本注記はすべて本文の文意不通・不

審の箇所が付されるが、小林文庫本の方により合理性が認められるのは、四十一丁表十行目の一例しか存在しない。この一例に関しては次の8でまた触れる。

8 『今昔物語集』（以下、『今昔』）と関係の深い説話に付された異本注記はすべて十六個あるが、三十三丁表七行目は本文と同字を注記したものであり、三十三丁裏四行目は6に指摘したように異体字を記しただけである。その他十四個の詳細は以下の通りとなっている（『今昔』の本文は新日本古典文学大系本に依る）。

A 十一丁表十行目（九話）「自天曇陀曼殊等四種花雨」の「曇」に「曼伊」○

今昔一・十三「曼荼羅花・摩訶曼荼羅花等ノ四種ノ花雨リ」同源関係

B 十五丁裏五行目（十二話）「大在見此女」の「在」に「王イ」○

今昔三・十六「大王ハ此ヲ迎テ見給フニ」 同源関係

C 二十丁裏九行目(二十二話) 「時迦葉延行至其国」の「葉」に「旃伊」○

今昔三・二十六「迦旃延、仏ノ勅ニ依テ其ノ国ニ行至テ」 同源関係

D 二十丁裏十行目(二十二話) 「切惡樹本拔々枯」の「拔」に「枝伊」○

今昔三・二十六「惡キ樹ハ本ヲ切ツレバ、枝葉ハ不指ズ」 同源関係

E 二十一丁表八行目(二十二話) 「此徳献能食物能乎問給」の「徳」に「仙伊」

今昔三・二十六「此レニ先ツ美食ヲ備テ美也ヤト問フニ」 同源関係

F 二十六丁裏三行目(二十八話) 「此女能奢自釜出自食肉」の「奢」に「着伊」

今昔一・二十六「能ク煮エテ、釜ヨリ出テ自ガ完村ヲ食テ」 同源関係

『私聚百因縁集』卷二の一「因果長者事」にも「女

能煮自身、後釜出喰自肉村」とあり、小林文庫本・異本供に誤写と考えられる。

G 二十七丁表七行目(二十八話) 「親諸法无常證阿羅漢果」の「親」に「覲伊」○

今昔一・二十六「諸法ノ無常ヲ觀ジテ、忽ニ果ヲ証シテ羅漢ト成ニケリ」 同源関係

H 三十二丁表六行目(三十四話) 「而今令聞仏法給」の「今」に「吾伊」○

今昔五・十六「我レニ仏法ヲ令聞ヨ」 同源関係

I 三十四丁表一行目(三十六話) 「便者答云」の「便」に「使伊」○

今昔二・十六「使答テ云ク」 同源関係

J 三十五丁表三行目(三十七話) 「此人先生々食家下賤也」の「食」に「貧伊」○

今昔二・二十二「此ノ人ハ前生ニ貧シキ家ニ生レテ、下賤ノ人ト有リキ」 同源関係

K 三十七丁表三行目(三十八話) 「若仏若坐吾示先世果報」の二つ目の「若」に「御伊」

今昔三・十五「若シ仏ノ来給ヘルカ。然ラバ我ガ

前世ノ果報ヲ説給ヘ」同源関係

L 四十一丁表十行目（四十五話）「賜褒美也」の「美」に「裳イ」

今昔四・二十「賞ヲ可給シ」同源関係

M 四十九丁表四行目（五十五話）「但吞一提猶已酔臥」の「猶」に「酒イ」○

今昔五・三「痛ク酔フ酒ヲ多ク令飲メテ」異伝関係

N 四十九丁表六行目（五十五話）「極奏麗嚴好」の「奏」に「美イ」

今昔五・三「玉ノ女共、髪ヲ上ゲ、玉ノ装束テ居並テ」異伝関係

A→Nの末尾に記した「同源関係」「異伝関係」は今野達氏「出典考証」（『今昔物語集』一 新日本古典文学大系三十三）に依る。○印は『今昔』の本文に近い方に付した。十四個中九個は異本注記が『今昔』に近く、小林文庫本の方が『今昔』に近いという例は存在しない。7で述べた合理性に関しては唯一Lの例が、異本注記を小

林文庫本が上回る。異本にいう「褒裳」なる熟語は見いだせないし、「裳」では文脈に合わない。しかし、『今昔』の本文は「賞ヲ可給シ」とあり、異本注記の「裳」が「賞」の誤記であるとするならば、異本注記の方が『今昔』にやや近いということになる。

3、4から異本が有欠本と考えると一応の理屈は通るが、想像の域を出るものではない。合理性という点で小林文庫本を上回る異本が嘗て存在し、それは『今昔』と関係のある説話に関して言うと、より『今昔』に近い本文を持つものであった。最後に、注記者の方針について言及すると、Lはたった一例ではあるが、意味を持つものと言えよう。注記者は小林文庫本の文意不通・不審の箇所を修正する場合に限って異本注記をしたのではなく、本文の違いを網羅的に注記しようとしていたと考えたい。

（文責：細田）

■解説

本稿は名古屋大学附属図書館蔵小林文庫本『百因縁集』¹（以下、煩を避け「小林本『百因縁集』」と表記）の本文翻刻である。今回は「本文編」として本文の翻刻のみを掲載し、後日、改めて「訓読編」を掲載する予定である。小林本『百因縁集』は、先に中根千絵氏が『今昔物語集』と類話関係にある説話を翻刻されている。² また、同氏は論考「名古屋大学蔵本『百因縁集』の成立圈」³において、『今昔物語集』と本書との類話関係に一部修正を加えつつ、本書の伝来について考察されているので参照されたい。

本書の題名である『因縁集』は、説教僧が大部の書物から説教用の抜き書きを行い、手控えとして作成した写本の総称とされる。⁴ 近い時代の史料が残存しやすい事情はあるが、江戸期に作成された『因縁集』が多く現存している。⁵ 一方、本書は奥書に寛永十年（一六三三）に宮谷談所（本国寺宮谷檀林。現、大網白浜市）での書写とあり、その書写年から考えれば、江戸期に『因縁集』が作成される以前の資料となり、現存している『因縁集』

の中では古い資料であると言えよう。

本書が筆写された宮谷檀林は日蓮宗勝劣派の檀林であり、原始天台の研究が中心であったとされる。⁶ 一方、小林本『百因縁集』は序文と跋文に『林間録』を引用しているが、『林間録』は北宋の禅僧覚範慧洪の談話を弟子が筆録した禅籍である。日蓮宗勝劣派である宮谷檀林に禅籍の影響が見られる本書が存在したことについて、中根氏は小林本『百因縁集』は元々禅宗寺院で成立した書籍で、それが説教の元本として関東に流布したのであろうと推測されている。⁷

（文責：竹ヶ原）

■出典・類話

現時点で小林本『百因縁集』の直接の典拠であると考えられる資料は確認できていない。先に中根氏が指摘されたように、全体のおおよそ半分の説話で『今昔物語集』に収録された説話との関係性が認められる。⁸ しかし、小林本『百因縁集』の本文と『今昔物語集』の本文との間には異同が多く、直接の参看関係にあるとは考え難い。

また、『今昔物語集』に収録された説話との関係性が指摘されている『三宝感応要略録』・『経律異相』・『法苑珠林』といった仏書に収録された説話とも必ずしも近い本文にあるとも言い難く、おそらく、こうした仏書から何段階かの継承を経て本文が変化し、小林本『百因縁集』の原本に採録されたのであろう。以下、小林本『百因縁集』所収の説話と他の仏書に所収された関係説話とを比較してみたい。

小林本『百因縁集』の第二十七話「繪師以金修善事」は、『大品般若経』の注釈書である『大智度論』卷第十六第十一、および中国唐代の仏書『法苑珠林』の卷第二十一に關係説話が見える。『大智度論』と『法苑珠林』との間には数文字の相違が確認できるのみであるため、以下では『大智度論』の該当部分のみを引用する。なお、『大智度論』の本文は大正新脩大藏經を使用した。小林本『百因縁集』の引用本文には、私に句点と傍線とを施した。句点は現時点の暫定的なものである。『大智度論』『百因縁集』双方ともに字体は現在通用の字体に改めた。

『大智度論』卷第十六第十
七話
小林本『百因縁集』第二十

譬如大月氏弗迦羅城中有一
畫師。名千那。到東方多利
陀羅國。客画十二年得三十
兩金。持還本國於弗迦羅城
中。聞打鼓作大会声。往見
衆僧。信心清淨即問維那。
此衆中幾許物。得作一日
食。維那答曰。三十兩金足
得一日食。即以所有三十兩
金付維那。為我作一日食。
我明日当来。空手而帰。其
婦問曰。十二年作得何等
物。答言。我得三十兩金。
即問三十兩金今在何所。答
言。已在福田中種。婦言。
何等福田。答言施与衆僧。
婦便縛其夫送官治罪断事。

昔有一人絵師。得請行伽陽
城。有妻子有二人。是置於
家行去。妻子一年侍之不
見。二年侍不来。十二年云
得金卅兩還来於途中。修善
根所至道心俄発。問一人僧
云。此寺以何等重物修善
問。僧云。金有三十兩修云
へり。此絵師取出金。献仏
供養僧。空手還本宅。時
妻悦云。何物持来速子共食
ヨト云。男答云。金三十兩
有生々生々世々不失納藏云
へり。妻云。藏何在藏云。
男云還ツル路貴仏僧御坐。
已奉供養。其不失藏云。
時妻腹立云。冬夜糸寒汝今

大官問。以何事故。婦言我夫狂痴。十二年客作得三十兩金。不憐愍婦兒尽以与他人。依如官制輒縛送来。大官問其夫。汝何以不供給婦兒。乃以与他。答言。我先世不行功德。今世貧窮受諸辛苦。今世遭遇福田。若不種福後世復貧。貧貧相続無得脫時。我今欲頓捨貧窮。以是故尽以金施衆僧。大官是優婆塞信仏清淨。聞是語已讚言。是為甚難。勸苦得此少物尽以施僧。汝是善人。即脫身璽珞及所乘馬并一聚落以施貧人。而語之言。汝始施衆僧。衆僧未食是為穀子未種。牙已得生。大果方在後身以是故言。難

来思。夏日温苦吾男今来見侍。然經十二年来此如得王。聞如得燃思。已汝何卅兩金十五兩作善根。殘十五兩不持来乎。其故為養子共。多借人物置也。吾男来速返約束。汝来極无情无益也云闢諍。抑汝訴官申令処獄云。妻訴檢非違使処尤道理也云。又男何問其亦件供養之由陳申。又是道理也。乍二人極哀也云。男令得乘馬女懸^{ニウツ}无価宝珠脱衣令得。又國王聞食此事。垂哀讓国位給云へり。是則修善根。諸天加護有加樣果報得也。

得之物尽用布施其福最多。……

(八)

『大智度論』所収の説話と小林本『百因縁集』との間では、絵師(『大智度論』では「畫師」)が十二年の作業の対価として三十兩を得たが、僧に全額を喜捨して帰国したために妻と対立した旨の大筋は同一である。小林本『百因縁集』では絵師の名前や絵師の帰国途中での僧との会話が省略された一方、傍線部で示したように、絵師の妻視点での文章が追加されている。『大智度論』では裁判の結果、馬や璽珞が与えられたのは絵師だけである。また、小林本『百因縁集』では僧や寺への喜捨を「納蔵」と称しているが、『大智度論』では「在福田」と表記しているように、語句の言い換えも存在している。

小林本『百因縁集』の第四十三話「波羅奈国貧女事」は、『大涅槃經』卷第二十二所収の説話を大幅に改変した上で収録されている。以下に引用する。『大涅槃經』の本文は大正新脩大藏經を使用した。小林本『百因縁集』の句点・傍線は先の引用と同様、仮に施したものである。また、一部の文字は原本の補入記号に従い移動させた。

先の引用と同様、双方とも字体は現在通用の字体に改めた。

『大涅槃經』卷第二十二
 仏言。我念過去無量無辺那

小林本『百因縁集』第四十三話

由他劫。此娑婆世界有仏出世。号釈迦牟尼。為衆生宣說大涅槃經。我於爾時從善友所。轉聞仏說大涅槃經。心中歡喜。即欲供養貧無財物。遂行売身福薄不售。即欲還家。路見一人而復語言。吾欲売身。君能買不。其人答言。我家作業人無堪者。吾有患病良医処藥。応当日服人肉三兩。卿若能以身肉三兩日日見給。便当与汝金錢五枚。我時聞已歡喜語言。恵我七日須我事訖便

昔波羅奈国有一人貧女。色形見惡事如鬼神。女思。吾先世不修善根。今世形惡又貪窮身也。今世又不修善根。後世亦後如是。吾何修善思。更无術。所詮売身。奉供養仏陀（佛）思定行歩。更无買人。爰有一貧家。買云売身與地者買云出。々女已奉売云。亦家主問云。買汝身。兎角セシニ汝云何云ヘリ。女答云。只奉売身。可任御意答。抑我身有病。年久而食人温肉可愈云云。

還相就。其人答言。聴汝一日。我即取錢往至仏所。礼已奉獻。然後誠心聴受是經。我時闇鈍唯受一偈。

如來証涅槃 永斷於生死

若有至心聴 常得無量樂

受是偈已至病人家。雖復日日与肉三兩。以念偈故不以為痛。日日不廢足滿一月。其人病差瘡亦平復。我時見身具足平復。即發菩提願求來世成仏之時亦願号字釈迦牟尼。以是因縁今得成仏。

抑買汝。其身剥皮截肉欲吸血也。女答云。兎角御意次第也云時。錢三文買女。取錢云。三日間免暇給乞。已免 此女。登山寺奉仏僧遂供養。一人僧誦經。女聞此偈。還主家。洗清身至主前。臥時病人起拳。即取劔割切其身。而先問女云。抑汝日來成何事云ヘリ。女答云。吾前生心拙不修善根。今生貧女。今世不修善。生々世々又如此。仍錢三文身交易。奉供養仏僧也答。病人云。抑仏者何様者。答云。仏申具三十二相八十種好給見者。歡喜无厭。德備難化能化住願。一切衆生垂一子慈悲人也云云。病人

云。然何故言フト問。女答
云。仏説甚深无量法門給
云。病人云。而汝持其文
歟。語吾令聞云へり。時女
以偈令聞云。如來証涅槃。
永斷於生死。若有至心
聽。常得无量樂文。女説此
文。病人忽病愈。女人ト
モ々々断无明之惑。証初果
入仏道云へり。

『大涅槃經』と小林本『百因緣集』との間とは、自らの身を売って得た錢で仏を供養したこと、『大涅槃經』の偈(傍線部)が本文に引用されている点が共通する程度で、実際に自分の身を病人に与えたか否か、更に言えば主人公が釈迦か否かも異なる。

この『大涅槃經』所収の説話は、『経律異相』『法苑珠林』『正法眼蔵』等で引用が確認できる。先に寺院や僧侶がそれぞれの『因緣集』を所有していたことを述べた。

本書についても、何時・誰がこうした作業を行ったのかは不明であるが、各種仏書から採録した説話を、説教の場で用いるために改編し、小林本『百因緣集』の元となった仏書に収録したのであろう。

先に引用した第二十七話「繪師以金修善事」とも共通する要素として、関係説話よりも「妻」の視点からの文章を加える、主人公を「貧女」に変更するといった女性を強調する改変がみられる。この二話における本文の改編は、女性の聴衆を意識して行った可能性が考えられよう。この点については、小林本『百因緣集』所収の他の説話の改編と比較した上で、改めて別稿にて検討したい。

本文の典拠・類話については現在も検討中であるため、後日別稿にて報告する予定であるが、本稿では名古屋大学図書館ホームページ内で共通する説話が存在するとの指摘がある『今昔物語集』『三国伝記』『私聚百因緣集』と、現時点までの検討作業の中で関連性が認められた『経律異相』『法苑珠林』に対象を限定し、小林本『百因緣集』と関係すると考えられる説話の一覧表を掲載する。

(文責…竹ヶ原)

表1 小林本『百因縁集』関係説話一覧

話数	目次題	割注	竜頭	本文題	『今昔物語集』	『三国伝記』	『私聚百因縁集』	『経律異相』	『法苑珠林』
一	国王求大法事	付提婆品	求法	大莊嚴論云	5 10	1 4			
二	一人罪人免地獄	付地藏	誦文			5 2			
三	五人后事	付開法	開法	五百人后事	3 25	4 1		29 7	21
四	鳩尸那国拔提河事	付闍王	見仏	鳩尸那国拔提河事	3 27	7 7			
五	天竺道行	付闍王	聞法	天竺同行事	4 13	10 22			
六	迦毘羅城無佛法事	付釈迦	唱仏名	迦毘羅城无佛法事	1 14	8 10	4 16	5 14	
七	舍衛国五百盜人	五百羅漢	唱佛名	五百人盜人	1 38				
八	深山僧誦經事	付釈迦教化	誦經	深山一人僧誦經事	5 13				41
九	滿財長者事	修善可生天	拜仏	滿財長者事	1 13		2 6		55
十	目連尊者弟事	付釈迦因位		目連尊者事	3 24		1 5	14 13	56
十一	迦毘羅國率都婆事	成王后事		迦毘羅國率都婆事	2 4	3 10	3 5 2 8	28 6	
十二	魔訶陀國貧女老母事	子教母孝事		摩訶陀國貧女事	3 16				
十三	僧念阿弥陀仏事	知因果		念阿弥陀佛事					
十四	舍衛国俗家仏宿事	知因果		舍衛国俗人家事					
十五	伯耆大山事	知因果		伯耆大山事	2 5				
十六	俗被教妻射母事	付不孝事		俗被教妻射母事	20 33				22 13
十七	長者家人物員事	知因果							
十八	人打犬令哭事	知因果		犬打事	3 20				
十九	舍衛国橋梵事			舍衛国橋梵事	4 23				
廿	閻魔王宮僧尋同法僧事			閻魔王宮僧同法詣事					
廿一	天和事	負物不反作馬事十三才		天和母事					
廿二	迦旃延事	教化女人弘仏法		迦旃延事	3 26				
廿三	山寺百人僧事	修行成羅漢		山寺百人僧事					
廿四	寺曳材木牛事	借物仏不返事		寺材木曳牛事					
廿五	俗人母負物徵事	付不孝		俗人母負物徵事					
廿六	太子拔眼事	付提婆品釈迦事	釈尊大悲之事	太子拔眼事					
廿七	給師以金修善事	作國王事		給師以金修善事					
廿八	百廿歳僧事	付羅漢		百廿歳僧事	1 26		2 1	35 4	21
廿九	和頼多事	付出家修道		和頼多事	1 25			18 3	
卅	恒河側貧女事	付出家天人		恒河側貧女事					

※表中の数字は「巻数・話数」を示す。特定できなかったものは括弧書きで付した。
 ※『今昔物語集』は新日本古典文学大系本、「三国伝記」は池上洵一校注本、『私聚百因縁集』は古典文庫本を使用した。
 ※『経律異相』『法苑珠林』の巻数・話数は『大正新脩大藏経』本による。

話数	目次題	割注	龍頭	本文題	『今昔物語集』	『三国伝記』	『私纂百因縁集』	『経律異相』	『法苑珠林』
卅一	五百人王子事	付五百羅漢		五百王子事	5 12				
卅二	内裏火災事	付離欲		内裏火災事	5 15				
卅三	西国俗人事	付觀音		西国俗人事					
卅四	国王菓子事	付仏法堂		国王菓子事	5 16				
卅五	舍衛国勝義女事	付慈悲		舍衛国勝義女事	1 32				
卅六	山里俗人事	付妻事出身□		深山里俗人事	2 16			36 12	
卅七	人天蓋事	笠恵事		人天蓋事	2 22	11 19			37
卅八	摩訶陀国五百人王子事	付不淨油事		摩訶陀国大王五百人子事	3 15				
卅九	大臣之子事	付正直盜人		大臣子事					
四十	玄邈紫丹二人后事	付仏法		玄邈紫丹事					
四十一	以千両金買一行文事			以千両金買一行文事					
四十二	鷹放鶏事	付不知恩者		鷹放鶏事					
四十三	波羅奈国貧女事	壳身供仏僧事		波羅奈国貧女事					17
四十四	屈太以慈悲破地獄			屈太事	1 18	8 13			22
四十五	田舎僧妻事	付二婦事		田舎僧妻事	4 20	8 27		37 2	
四十六	法性寺住僧事	借仏物不返事		法性寺住僧事					
四十七	波羅奈国被拔眼事	付法花経		波羅奈国女抜眼事	4 22				
四十八	俗人国王被免頸	信仏法現神反		俗人国王被免頸事	4 21			37 3	
四十九	越前国猿經書事			越前国猿經書事	14 6				
五十	貧女仕地蔵菩薩事			貧女地蔵菩薩仕事					
五十一	貧女吉祥天女事			貧女吉祥天女仕事					
五十二	誦経延命事	付釈迦弥勒		誦経延命事					
五十三	南天竺五百人鉤人事	付五百羅漢		南天竺五百人鉤人事					
五十四	鳩摩弥国持経者事	助母事		鳩摩弥持経者事		4 19			
五十五	天竺賢直事			天竺賢直事	5 3			44 3	
五十六	狐師取雁事	付五百羅漢		狐師取雁事					
跋文									
序文									

※序文・跋文は『林間録』が出典である。
 ※判読不能の字は「□」とした。
 ※漢字は現行の字体に改めた。

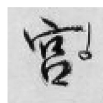
凡例

- 1、『百因縁集』の底本は名古屋大学附属図書館蔵（小林文庫）本とする。同書については同館のホームページ（<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/cgi-bin/wakan/wa.cgi?ik37>。11019年十二月確認）にPDFファイルが公開されている。また、今回の翻刻はクリエイティブ・コモンズ「表示・継承」のライセンス下で利用が可能であるが、追加条件が適用される場合がある。詳細については名古屋大学附属図書館のホームページ内の「データベースの利用について」を参照されたい。
- 2、本文に付されている訓点は省略し、本文のみの翻刻とした。訓点などは今後予定されている「訓読編」に反映される予定である。
- 3、改行、一行あたりの文字数は底本のまま（一行二十字、一頁十行）とする。また、一字分の枠を用いての「云へり」「云云」表記は、底本の様態に近づけるため、字を縮小した。
- 4、本文で使用されている文字は異体字・俗字は現在通用の字体に改め、その他は可能な限り底本の表記に近

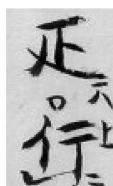
い字体とした。そのため、行中で旧字体・新字体が混交することがある。また、こうした方針で翻刻を行った結果、そのままでは文意をとれない文が存在するが、後日の「訓読編」では文意がとれるように修正を行う予定である。

5、踊り字は「々」に統一した。

6、ミセケチや頭注・脚注・傍注はそのまま表記した。また、補入を意味すると思われる記号「○」（左記の事例参照）も底本のままに入力した。補入記号には挿入線が引かれたものも存在するが省略した。



補入記号の例（三話より）



補入記号の例（二十話より）

7、判読不能な字、あるいは疑義のある字については注を付し、残画から文字が類推できた場合は四角囲いで

文字を表記し、判読不可能な場合は「□」とした。注

は翻刻本文の後に一括して底本の画像付きで記した。

8、異体字「井」は凡例4に従い「菩薩」としたが、一

行あたりの文字数を再現する意図から、「菩薩」と亀甲

括弧を施し括弧内に付記した。その他、翻刻者が付け

加えた字句は亀甲括弧内に記入した(例…三十八話の

話数表記)。

9、翻刻の便宜上、一話ごとに空白行を一行挿入した。

10、「今／令」「已／己」といった文字は、書写者による

明確な区別がなされておらず、適宜判断した。

11、注15・注24のようにフォントが存在していない一部

の字には注を付け、別な文字を使用した。

(付記) 今回の翻刻に際しては、一部、北海道教育大学釧路校准教授である石井行雄氏のご教示をいただいた。特に記して御礼申し上げます。

(文責…竹ヶ原)

翻刻担当

追塩千尋 4・5・6・20・21・36・37・50・51

鈴木英之 34・35・48・49

高谷和明 55

竹ヶ原康弘 目次・序文・12・13・27・28・43・44・56・

跋文

新田沙織 15・29・30

野本東生 1・2・3・14・16・18・19・31・32・33・

45

林晃平 9・22・23・38・46・47

細田季男 7・8・24・25・39・40・53・54

米山孝子 10・11・26・41・42・52

(五十音順)

名古屋大学附属図書館蔵小林文庫本『百因縁集』上巻 翻刻本文

百因縁集上巻并目錄¹⁰

本通寺什物¹²

一	国王求大法事付提婆品	二	一人罪人免地獄付地藏
三	五人后事付闍法	四	鳩尸那国拔提河事付闍王
五	天竺道行事不修善根悔事	六	迦毘羅城無佛法事付尺迦
七	舍衛国五百盜人事五百羅漢也	八	深山僧誦經事付地獼猴
九	滿賤長者事付尺迦教化	十	目連尊者弟事修善可生天事
十一	迦毘羅国率都婆事付尺迦因位	十二	魔訶陀国貧女老母事成王后事
十三	僧念阿旃陀仏事子教母孝事	十四	舍衛国俗家仏宿事知因果
十五	伯耆大山事知因果事	十六	俗被教妻射母事付不孝事
十七	長者家人物負事	十八	人打犬令哭事知因果事
十九	舍衛国憍梵事	廿	閻魔王宮僧尋同法僧事
廿一	天和事負物不反作馬事十三才	廿二	迦旃延事教化女人弘仏法
廿三	山寺百人僧事修行成羅漢	廿四	寺曳材木牛事借物仏不返事
廿五	俗人母負物微事付不孝	廿六	太子拔眼事付提婆品尺迦事 ¹³
廿七	繪師以金修善事作国王事	廿八	百廿歲僧事付羅漢
廿九	和頼多事付出家修道	卅	恒河側貧女事付出家人事
卅一	五百人王子事付五百羅漢	卅二	内裏火災事付離欲

二丁表

- 卅三 西国俗人事付観音
卅五 舍衛国勝義女事付慈悲
卅七 人天蓋事笠惠事
卅九 大臣之子事付正直盜人
四十一 以千兩金買一行文事
四十三 波羅奈国貧女事賣身供仏僧事
四十五 舍僧妻事付二婦事
四十七 波羅奈国被拔眼事付法花經
四十九 越前国猿經書事
五十一 貧女仕吉祥天事
五十三 南天竺五百人鉤人事付五百羅漢
五十五 天竺賢直事

- 卅四 国王菓子事付仏法望
卅六 山里俗人事付妻事出身¹⁴
卅八 摩訶陀国五百人王子事付不淨油事
四十 玄遙紫丹二人后事付仏法
四十二 鷹放鵲事付不知恩者
四十四 屈太以慈悲破地獄
四十六 法性寺住僧事借仏物不返事
四十八 俗人国王被免頸事信仏法現神反
五十 貧女仕地藏菩薩事
五十二 誦經延命事付尺迦旃勒
五十四 鳩睺弥国持經者事助母事
五十六 獵師取鷹事付五百羅漢

〔空白頁〕

一二一表

一二丁表

一二丁表

居位高人遂催无常風隱形貴女定趣黄泉道生者
必滅之理何物非帰无常仍以聽聞之功成後世之
因記孝養之文結菩薩之縁耳

林間録云衛嶽楚雲上人生唐末有至行嘗刺血寫
妙法蓮花經一部長七寸廣四寸而厚半之作栴檀
匣藏於福嚴三生藏又刻八字於其上曰若開此經
誓同慈氏皇祐間有貴人遊山見之疑其妄使人以
鉗發之有血如綫出焉須臾風雷振山谷煙雲入屋
相旋不相見跡日不止貴人大驚投誠懺悔嗟乎願
力所持乃尔異 予嘗經游往頂戴之細看血綫依
然貫休有詩贈之 剔皮刺血誠誠イ何苦為寫靈山九
會文十指瀝乾終七軸後來求法更无君

三丁表

三丁表

求法

一

大莊嚴論云

昔有国王為求法故修行山林有一仙人出来云吾
持大乘法門奉教汝可隨吾云事大王答云若有聞
法可碎身命言仙人云九十日之間一日五十度以
針槌身吾貴教法門云大王云只一日千度槌給為
法不惜命言身枉立給時仙人以五十針一日五十

誦文

二

度參打之三日云問云若汝有痛耶 答云无痛九
十日之間如此何云大王云墮地獄洞燃猛火被燒
身日痛云准彼此苦百万倍不及其一言九十日之
間能忍給後得八字法門所謂諸惡莫作諸善奉行
云八字文也尔時国王者今釈迦佛是也尔時仙人
者令提婆達多是也

四丁表

同論云一人罪人獄卒被追行途中僧出来問罪人
云汝在処所習有法門乎若有覺誦令聞獄卒罪人
云在処时无聞習事仍无可誦文答僧云猶不慮外
一句有聞事乎思出言更不覺云獄卒跡○迅追令墮在
无間地獄此僧猶悲罪人往至地獄云哀哉悲哉
吾地藏菩薩也吾教文誦遁罪教云若人欲了知三
世一切佛應當如是觀心造諸如来教玉ハ罪人聞此
文誦地藏猛火忽變成清涼池落処无数億罪人離
苦證羅漢果云縁歟ヘリ

四十表

聞法

五百人后事

三

昔有国王具五百人后玉へり下宣旨云吾○内后及采宮

女等不可趣三宝道若有背宣旨族以刀兵可殺云

仍一人趣二字消歟仏法道者无一人経数歳然有最愛后一

人吾被寵愛帝王若不聞仏法名字後世必墮三惡

道无出離期王者必无不滅吾五百人中其最寵愛

人也然死必墮无間獄殺害急有不思死事利遲差

別也死成土身也同參仏所聞法死思詣佛所先逢

僧說法奉聽聞云僧云汝王宮人為仏法有宣旨聞

更不可教設後有教汝命甚為何后云我違国王法

為聞仏法出来也吾聞法還王宮死事尤理也生者

必滅盛者必衰習也吾雖蒙王寵愛不可保万歳着

須與樂還三途古郷无益只教貴法門云時僧為后

說三帰法門后聞云佛所說法猶有之乎僧又說十

二因縁法四諦縁生法門令聞后云吾遇師奉見容

此度許也自欲還王宮雖然奉遇仏法僧永離三惡

道惡苦殖淨刹之因願依此善根後生成仏利益一

切衆生發願礼僧還王宮書上帳入内国王儲弓矢

射后三失也其失一登空一失逆后三度在前一失

五丁表

(一八)

見仏

四

鳩尸那国拔提河事

鳩尸那国拔提河邊沙羅林中佛說大涅槃之教法

尔時耆婆大臣教阿闍世王云闍王已造逆罪給定

墮地獄彼鳩尸那城拔提河辺沙羅林中仏御座說

常住仏性教法利益一切衆生參給先懺悔罪給申

時阿闍世王云吾既殺父仏更能思食事更不可有

亦見我不可言臣歟云へり耆婆大王云佛修善根哀也見給

又作惡哀也見給為一切衆生垂平等一子悲人也

只參給申時阿闍世王云吾作逆罪決定墮无間地

獄設奉見佛事不定也年已老今更吾佛辱思無益

也云大臣云此度奉見仏殺父不滅罪必墮无間獄

不可有出離期仏更惡不思只參給勸進尔時佛放

光照阿闍世王身時阿闍王云劫訖時月日一二三世

開法

五

天竺行道行事

七丁表

天竺人行道必具僧守護故昔有一俗人為交易物乘船浮海惡風吹波底船卷入時梶取見船下一俗人問云汝何人俗人答云吾龍王也汝船卷入思也云へり梶取云有何故汝我等急殺云乎龍王云汝具僧在吾家人也朝夕受吾供養過數歲然呵貴吾不教不修善根造罪今既墮地一日三度以釵令

出可照聞若劫訖日光照吾身云へり耆婆大臣云大王

聞喻人子數多有々所痛父母此勸養育大王既殺父

罪重譬人子非重病耶佛一子悲御座故為利益大

六丁裏

王從沙羅林指給佛光カシト申時阿闍世王老有意見

付參汝具吾々作逆罪行路間地破墮入地獄若有

左様象捕汝云阿闍世王詣仏所出立車五百兩皆

懸幢幡宝蓋大象五百頭負皆七宝其所從幾乎到

沙羅林參佛御前礼仏取證蒙受記佛言吾若不成

仏汝吾又不可成仏今汝來吾所已入佛道云殺父

云殺父

阿闍世王奉見佛斷逆罪及三界惑證果況非逆罪

人乎見佛功德如斯

六

唱仏名 迦毘羅城无佛法事

昔伽毘羅城无仏法皆墮^誦逐外道習書籍佛為教化

彼等衆生入其城給時佐摩耶外道教城內人云汝

等城瞿曇沙弥云者可來極不用之法師也物持人

造功德云无益失物成貧窮相思夫婁中急世无常

也修行仏法願棄云去又年若清氣見女人世无墓

者也成尼願後生云令剃頭斯令无益事欺人令取

損去人中衰人形大不用法師云城中人云サテ其法

師何スヘキ云外道云其法師只清流河澄池側居木

八十表

影者也然其池河入屎尿糞穢木切失各家戸立防

居猶入來儲弓箭射殺教時城內人隨外道教失江

杖

河儲弓箭刀林余時佛到彼城言汝等不聞我教遂

墮三惡道極哀也言池河成清淨蓮花開又樹榮成

切身事偏此僧咎也其妬¹⁵依無情殺思也云時梶取

云汝受她身預三熱苦連目蒙刀劔悲是則前生旧

業也愚癡亦重殺人云ヘカ定得其果報竜王云吾受苦

不知前後又不教吾令作罪極无情殺思也云龍王

七丁裏

聞心經離她身生天上云へり

金銀瑠璃地弓箭刀杖悉反成蓮花外道見佛神力
生勸喜心供養仏五鉢投地唱南無婦命頂礼釈迦
牟尼仏以額着地依其善根力皆得无生忍

唱仏名 五百人盗人事

¹⁶
七 昔舍衛国有五百盗人宮被禁各々被切片目片
耳氏乎氏足高禪云山麓被追捨无眼耳手足命不断
極物ホシ、何術ヲカセント哭吾等五百人今斯非人成物喩、
如瓦石又如破土悉現世成從物後生成從物足有
仏御前參乎有手摺眼有仏奉拜我等已俱二世成
從物何術セント云ヘリ時一人賢盗人云佛在世叶一切、
衆生願給也イサヤ我等五百人一度參仏御前云又
一人盗人云我等手足任心有時不仕佛若有奉仕
仏不見斯目仏神物不云誤取用其佛更我等能不
思食蒙辱又一人盗人云佛平等慈悲御座善人惡
人皆垂一子悲給誤取用仏物仏更不便可思食イサヤ
我等五人百^下一同唱仏御名云一同五百人拳声南
無釈迦牟尼如來高聲唱仏聞其音速至高禪山之
麓給說法給五百人盗人一度皆眼耳手足出來成

九丁表

八

誦經 深山一人僧誦經事

本身皆證漢果所謂靈山五百御弟子是也

昔深山有一僧誦經居遇七日霖雨人不通仙飢死
蛇猿狐兔四獸出來云我等雖落畜生道依聞仙經
已生天無疑此仙七日不食欲死為何云各相語設
供養去蛇獻一玉云舐只此玉給云猿取木菓猼猼
以馬牛肉供養兔更无術不能登木取肉鳥不及万
無術身也云捨薪燒火當仙感或時思吾離畜生道
可生天上此仙德也蒙恩不酬不成佛果云儲他供
養不及不如生身供養仙云踊入火爰仙云吾生々未
肉食云懷取其兔其免者令釈迦如來也誦經仙者
當來旃勒是也

九丁裏

九

拜仏 滿賤長者事

昔滿賤長者有一男子須達長者有一女子滿賤至
須達家見有女子一人端嚴美麗放光居滿賤長者
語須達云吾有一子合汝娘云ヘリ須達云更不可合云
滿賤長者云何故不可合云須達云吾娘奉仕仏吾

更不知亦汝已随逐外道雖然令言佛云須達詣仏

〔十一〕表

所此事白佛仏言吉事也只可合吾必行滿賤家教

化彼云へり時滿賤又云若汝娘合吾子十六万八千里

路敷金又以七宝莊嚴路迎之云于時須達領掌娘

滿賤如所言十六万八千里敷金以嚴路何況餘事

乎時佛召阿難勅言汝行滿賤家意見可趣善路者

歟若不趣定打追汝若尔乘神通可来云時阿難即

受教勅將无量大衆行至滿賤家々々人驚駭云爰、

昔不見惡人来若瞿曇沙弥云欲打追時滿賤云メ勸

制此滿賤子妻問云此和君師問云へり妻云不尔是我

師御弟子阿難尊者有云へり夫云此僧定和君君繫念来

〔十一〕裏

也猶打追云へり時妻云哀哉和君極愚也此僧斷三界

惑永離愛欲心人也暫成饗用事辞還時見云時阿

難登虚空放光現神通去爰滿賤子云成奇異思仏

又經一兩日遣舍利弗滿賤子又妻問云和君師云

是云妻云不尔此同朋舍利弗尊者来云ト云即時又

放光現神通去次富樓那須菩提迦葉等遣御弟子

皆各々至放光現神通還滿賤并子思仏弟子神通

妙有吾外道術不劣極出目增師作法何見思時佛

放眉間白毫相光照滿賤家東西南北四維上下六

種震動自天曇陀曼殊等四種花雨栴檀沈水之香

〔十一〕裏

充滿法界現希有瑞相曼陀爾時三摩耶外道出来云汝

家急惡人来汝并万億人可殺未知耶云時滿財未

知外道云大地震動東西南北不安令惡事物降様

々惡相有汝年来見斯様事有已瞿曇沙弥人釈迦

牟尼仏云其法師大惡人也以毒藥速欲殺害多人

今不知之云滿賤云何故其法師吾可殺害云外道

云其娘已瞿曇沙弥妻也被取妻正能思人有云へり滿

賤云サテ其何スヘキト云外道云其娘速追出云へり滿賤向

子云汝妻速追出有命自從是勝妻相合云子云先

父母人子皆世常道理也已吾父母歳老死事不知

〔十一〕裏

今明年又吾妻一日片卅時不見不可有世死云丘取

手共死思更不可出云外道語滿賤云外道軍急ナランニ

和君已入手无益也自害云へり滿賤云吾許有五百

釵取其第一釵来云へハ已取持来滿賤已取釵自害

自心弱語云吾自害不及又取三百釵来以釵取頸

以鉾指腹云時数多眷属出来以釵欲害滿賤時釵

前蓮花開鉾前又蓮花開尔時仏自耆闍崛山出給

其儀式其作法魏々耳目非所及文殊乘師子王具
无量衆左方打立普賢乘六牙白象王具无量菩薩大

衆右方打立万二千声聞千二百羅漢梵王帝釈四

大天王竜神八部諸鬼神等一々其左右列各所從

幾許釈尊已至滿賤家給其家无量无数人民悉見

佛永改外道邪見帰佛道云へり然仏法此外道法霜露

如值日光云

十二丁表

七宝者
正字通云
金銀琉璃
玻璃車渠
馬瑙真珠
摩璃
經七宝者
金銀琉璃
玻璃瑪瑙
真珠玫瑰

目連尊者事

十

舍衛国目連尊者弟有大富然不修一善目連哀之
行至弟所教訓云汝修善根得功德云弟答云吾父

母在家恣世云抑功德何事問目連答曰功德者一

一塵物施人得万物弟云サハ吾施云開一倉施人物

又五六造倉人間曰此何料云へハ功德為積也如是九

問賊

十日間賤宝施諸人間目連云汝生已後未妄語言

何故吾倉不積功德耶云目連云捕吾袈裟端云上

四王天忉利天夜摩天兜率衆反化天他化自在天

見四十九重摩尼宝殿其内各有一人女人瑠璃女

居瑠璃床綺瑠璃糸縫瑠璃衣珊瑚女居珊瑚床綺

十一

珊瑚糸縫珊瑚衣車渠女居車渠床綺車渠糸縫車
渠衣最極内金女居金床綺金糸縫金衣一々見之
思轉輪聖王娛樂家无如斯女人忉利天喜見城内
同此无女吾国波斯匿王家同此无女人誠目出度
問女云如此目出御座何人何料糸又縫何衣給云
女人答云此娑婆世界釈迦佛御弟子目連尊者弟
修善根已可生此其料縫衣吾等其眷属一向可奉
仕者也答聞此言歡喜躍踊云吾兄誠不妄語給生
々世々縁不如善知識云返舍衛国修善根生第
六天受勝妙樂閻浮提以十方大千歲彼天為一日
一夜其壽命万六千歲也其壽尽終入仏道云

十三丁表

迦頻羅国率都婆事

十一

昔伽頻羅国佛遊山玉陀羅樹下有率都婆仏其至

許此率都婆拜給阿難舍利弗迦葉目連等御弟子

恠之思仏何故此率都婆勲拜給乎佛人奉拜仏外

貴何物有之思奉問仏々答云昔此国大王无子乞

天祈竜神惣諸天致信心之誠于時其后懷妊有十

月生一子男子其王子十余歳之時国王身有病以

人歟

十三丁表

万藥治之不愈醫師云生以来芥子許不立腹取人
眼目骨髓和合付之必除愈云時人云仏外護人不
立腹者有乎更世中不可有事也時太子聞此思只
吾有思白母給生者必滅會者定離昔何人免此乎
徒婦无常穢土奉助吾父御命申給母后哭云更不
可免太子云為孝養有情吾命可入不孝内云語一
人施陀羅釵五百合取々吾眼目骨髓和合奉父王
大王得之病忽除愈給大王存命延給後吾太子何
不出来言大臣奏云太子為孝養身命奉大王給也
食其肉給病平愈申時大王悲哭云聞往昔殺父有
王未聞食子肉命生云事悲哉哀哉云噓山院羅樹^{臨殿}
木立率都婆給其大王者吾父也此率都婆為吾立
給也依此率都婆功德我令成等正覺教化衆生也
云云
御尺曰十八廿二

七十四丁表

摩訶陀国貧女事

十二 昔摩訶陀国有一人貧女年八十有余也有一人娘
歲十四歲也孝母无極時其国大王有行幸万人奉
見之思母問女子云明日見物汝出思乎若出吾湯
七十四丁裏

水飢云へり娘答云吾更不見侍^云其日此女為母橘菜
不見大王行幸時頻婆婆羅王見此女言彼有女万
人中不見吾何故无眼歟面見辱令問給女子答云
吾眼目手足不闕大王行幸極見等シ然家有貧母孝
養之无暇若見王行幸母孝可怠以此由申給云大
王留輦言世无類事云女也○召近此女問云吾許言^上
金有万兩有衣着汝吾共有言女答云大王仰極悅
然貧家有母孝无暇先白母被免參許今日暇申婦
貧家先向母問云久有思給問母云少不思云時娘
大王仰如此語母悅云吾生養汝時汝成国王后心^上
深思其本意相叶大王御口遷仰ツラシ悦願十方諸佛
垂權護吾娘大王不忘給必令迎給願其日暮晚貧
家門車卅兩立聞高人行通思猶聞此家問聞入來
以七宝莊嚴車乘此女已迎王宮大在見此女三千^王
寵愛在只此身給日竜夜見給更不足誠天下政万
事任意云へり^{終殿}

七十五丁表

念阿弥陀佛事

十三 昔有一人僧常念阿弥陀佛有妻不信者也有一男

子取付父念佛数珠常口学母惡之制之時其子死上五十二表
至閻魔王宮。問。小兒云汝見淨土七宝池思否。小兒

見申時具王此小兒令見七宝池給能々歩廻淨

土或見諸蓮花微妙不思議宣說大乘一実法門花

中皆人化生又見中无人有花小兒問閻魔王何故

皆人化生中无人有花乎。答云汝不知哉是汝父王上

汝可生花也小兒申何故吾母之花无王云汝母惡

業深重故可墮无間地獄无其花云小兒申哀哉不

孝父母人子落地獄仏說給吾幻稚爰來至已不孝

子也願王許七日暇還娑婆此由語母令修善根開

四花申許七日命小兒還娑婆責母令修善根修念

佛經七年遂四花令開云
上六十二表

舍衛国俗人家事

十四

昔釈迦如來舍衛国俗人家六日宿給朝早出給天

暗雨降風吹洪水出家主俗人云今日留給風雨有

難又同奉供養申阿難舍利弗迦葉等御弟子達今

日留給申佛言汝等極愚也一度交語宿依止皆先

世因縁也家主明聞汝先生虱有時人取捨寒死ヘカリシ

十五

伯耆大山事

時取汝付吾身六日延命七日云朝汝已死吾宿此
六日也仍今日不可止言速歸眷闍崛山給仍一言
一宿皆是先世果報也

上六十二表

昔有一人持經者誦法花經至七卷殘八卷不能誦

此由祈誓仏々示云汝先生牛也然汝主汝負物參

伯耆大山法坂本坊羈置詣神前其夜汝宿坊有持

經者誦經已七卷誦間夜已明汝主出來急取牽去

不聞八卷仍此卷不誦也故生人間先世所聞明誦

也示給ヘリ

俗被教妻射母事

十六

昔有一人俗用妻教欲殺害母深山將母欲射母時

母云汝欲射吾暫待汝可処分云脱二衣語云不穢

時取之一汝服之一服汝子サテ後吾射殺云抑汝吾

何射思欲射頭載汝處也欲射眼哀汝処眸也欲射

口吸汝口処也欲射胸吞乳処也欲射腹九月宿所

也欲射足為養汝求物足也更汝可射処无但脇汝

上七十三表

18

无思處サラハソコヲ射云懸箭射母忽大地破地底々エ入
母哭取髮曳髮留身落入ヌト云

犬打事

十八

昔有人家飼一犬主捕此犬打時側人睡聞其犬啼
声吾子吾痛打々々々々云聞眠驚家主如斯告
語已打止問犬云其实否犬答云吾汝母也汝吾子
也答子云有何故得此報給問吾先生住汝家人我
云事不聞依之訴汝一度打依其果報吾作犬汝常
打也依打吾汝生々世々亦如此可得果報也云ヘリ

舍衛国橋梵事

十九

昔舍衛国有一人長者有子名橋梵大惡人也殺害
諸人民生類令嫁娶更无相叶女求國中尋隣国不
能得還父家見吾母○无勝是○即吾妻セント思父家、
出入弥无内外母思親子間也有何疎事思時梵子
俄入母懷時母驚逃隱追捕遂嫁母果報拙已度々
為子被犯梵子思吾增父故万事不任心吾須殺父
盜世思即殺父父師羅漢聖者一人在家來見之欲

廿

閻魔王宮僧同法詣事

去時梵子見此僧逃去吾所為定語遠近人思又殺
羅漢如此千乘万騎任意時伴妻窮通他界梵子聞
此事大嗔即縛母打迫云昔吾汝子也今已吾妻也
汝爭可觸他身云已打殺仍造三逆梵子往日月漸
慚愧懺悔心發吾已逆罪造此若罪有无問仏思參
祇蘭精舍到已奉問仏々々在鷲峰山答サラハ御弟子達
聞給吾可申事有云件三逆由次第語千百二羅漢
等皆塞面側顏隨逐斯惡人有咎更不可見聞云去
梵子大嗔恚發即千二百羅漢僧坊經論法門皆燒
之拂婦家經數日又參祇蘭精舍至釈迦御前千二
百羅漢等見梵子欲打迫尔時梵子進出仏前千佛
五逆之由自始一々陳申尔時仏微笑給善哉々々
言梵子忽斷諸惡證羅漢果造五逆者奉見仏懺悔
其罪立処得果況本至誠心者功德哉

昔有二人僧一人精進勇猛也一人懈怠无慚也雖
然受人施此僧死墮地獄一人僧為訪同法以行力
詣閻魔王宮問同法之僧所在閻魔王答云汝同法

僧无慚愧故墮无間地獄釜行不可見今无間地獄釜八百九十億也争知云へり僧云若有王宣旨自至申

上九丁表

時間魔王与宣旨僧得其文至无間地獄釜見銅湯

佛還。火熾燃其火盛也其中件同法僧出暫止苦猛

上

患語云君說法利生結縁故来至此給吾无慚故落

此地獄釜願汝助吾給云何可助只法花經一部書

供養速可助云僧問云若吾母在所知僧答云在此

釜云如教行見母從釜底出獄率以鉗指返暫乞留

母語聞陳云吾為養汝造罪落此地獄抑吾行至汝

家三度也一度成犬至物盜食犬云打頭已打殺一

度成蛇至又打遂首碎死一度成狐至汝大物恠云

上九丁表

打殺吾子許思恋又物貪行至无情度々打殺吾其

又落此地獄釜可經无量劫汝与吾先生母子也汝

速可助吾僧云可修何事問母答云只法花經可書

供養離苦生天云

天和母事

廿一

昔天和云人具二疋女馬。追令行前一疋。行路一疋
自乗後行是馬二疋ナカラ水上顛倒數鞭打之不起云

痛打吾汝母也汝雖養育我尚吾物要有故作米一
石文書汝姉相借用不返死依其業令十三年間仕
汝也今已其米酬畢時吾此事云□。顛伏馬汝姉前
也汝乗吾即汝母也云時天和哭云実吾母御座前
立定室御座云シカハ母馬姉馬共還子子天和家サレハ地
獄餓鬼有情修羅畜生族也云へり皆是生々世々父母
親子也

上十丁表

迦旃延事

廿二

昔釈尊為教化衆生阿難舍利弗目連迦葉等御弟
子五百人各分遣諸国迦旃延當闍賁国尔時迦旃
延云其国神国未見仏法名字日々夜々常獵狩所
作諸惡国也何教化之申給仏只可行言時迦旃延
行至其国思切惡樹本援々枯然吾先行国王許欲
教化其行至王宮而国王出狩給時數千万騎衆出
時迦旃延錫杖荷肩三衣一鉢懸臂立其前或人云
未曾見者出来此何人恠之奏大王々勅云只可殺
云依之欲取頸時迦旃延云暫待大王可申事有聽
將至王前即王問云汝何人未曾見知吾惡人也汝

上十丁表

来此有極愚也迦旃延答云国王極能御坐吾極惡人也大王狩御乍知前立行申給大王興宴經共具給

還王宮給此德^{神イ}獻能食物能乎問給イト能申給又、

獻惡食物此又何問給此又イト能答大王云惡能皆

能云何問給迦旃延答云法師口竈口同也何不嫌

入腹只同意也申給弥哀憐无極時經數日迦旃延

大王申給吾九十日行女人所說法令聞云去給至

女人所居給女拔頭髮賣九十日供養九十日云又

詣国王許給王問云在何処食物又如何問給答云

為女人說法此女人即拔頭髮賣之令食申給時大

王見彼女言遣使召不參使者奏云彼女放光居端

嚴美麗无双也申時国王又遣花輦此女放光王宮

来至大王出向居九重裏給本五百人后如螢此后

如日月寵愛无極終日竟早朝宮仕是迦旃延說法

故也其々国給弘仏法云へり

二十一表

山寺百人僧事

廿三

昔山寺有百余人僧止住各修行佛法習字經教国人皆此寺僧常請或時二十人或時四五十人

請此中有一人老僧歲八十有余也貧窮无福修行

佛法寺僧請用有此老僧不入僧數雖然請用有聞

度先剃頭沐浴可入請僧事待而已而衆僧輕賤更

不相交時其国大王設大法會請其山寺百人僧老

僧思此度已百人也サリ凡吾人衆數思又剃頭沐浴

借衣裳待此度不入百人數而此僧有一人弟子即

取師老僧思弟子云事尤道理也吾極恥カシト念入深

山投身時樹神受取此僧居木本時仏来說法給其

文云法性如大海不說有説是非凡夫賢聖人卒等

无高下仏説是偈時此僧證果成羅漢樹神又教云聖

人極愚也今還本山寺其所作清涼池蓮花開可坐

其云老僧如教還山寺其所速成七宝池開蓮花從

身放光坐蓮花上百人僧徒食飯酒得希施物各開

榮花之眉還本住山見吾等住所皆作清涼池蓮花

開中彼老僧放光居見之実不異仏如来百僧人達

云我等誤為佛法致无頼之咎願聖人免我等愚癡

無智咎利益我等給僧同音五鉢投地作礼聖人為

彼等説此偈給百余僧共成阿羅漢高貴不貴下賤

不可賤一切衆生悉皆佛性有故也云

二十一表

二十一表

寺材木曳牛事

廿四

昔北国有大伽藍破懷顛倒其辺人為修理入山取材木時一牛出来十二年之間曳此木時万人哀此牛常曳之至江河水洗之此牛背有文其文云此事先生此寺住僧也アリ其故修理料米五舛借用買酒吞不返已死依其報成牛来十二年間可酬其借用米雖少酬哀^{事イ}經十二歲有心人間知之云ヘリ

俗人母負物微事

廿五

昔田舎有一人俗母置家登京入学衆其人家豐宜家稻積諸方出拳然其母貧窮也子積置稻十束借用之可返无力不返子帰来向母稻迫微不堪返之之田答雖母負所稻何不出云速汝出暴迫時村々里々人々哀此母或一束或半或一二把充出合力十五速^{束イ}稻返ムト其母向子語云汝吾子也吾汝母也吾今十五束稻返吾乳房之斗百八十石三斗直速可出云亦汝居上迫吾々居下露地被迫汝定有罰歟云シカハ時則口吐血家付火烧死云ヘリ蒙恩不知恩者如斯^云

尺尊大悲之事 太子拔眼事

廿六

昔有国王有一人太子道心无極藥方術无双又其国有一醫師如太子醫術可殺廻計時其州病患起人民半分死亡尔時大王哀民召件醫師可治此病患語方便給醫師答云生以来未腹立取人眼洗流可吞セシム人皆病止ナント奏時大王云我国始至他国普求誰人生以来未腹立人有仏外更不可有^云其時太子倒^{倒イ}居玉ヒテ聞此事白大王繪^繪自候ナラン拔取吾眼愈衆生病給時大王云縱^下生衆死了吾又死吾取太子眼更不可有也太子此身无常也惜之遂死成土。○^{二十四下表}

吾惜此身不可殺多衆生亦吾滿衆生願代苦衆生思誓有之遂成佛欲利益衆生身也猶吾子思食許此事給^{遇テ}遇善知識事非小縁申給大王后五舛投地伏亡言吾子讓国位又死道代思ソルニ何故此事出来ソト泣哭給无限雖然太子發誓願言吾此度捨兩眼後生必成仏得其眼備三十二相八十種好利益一切衆生云拔兩眼洗水令吞法界衆生給衆生共吞其水病悉除愈无病自在也時帝釈来問太子言汝依何願捨兩眼要轉輪聖位歟要帝釈卅三天王位

二十三下裏

歟要大梵天王寂禪定之目度出_下樂歟吾叶汝願言_上
時太子答云天上勝妙樂更不要只我成佛利益一
切衆生思也言帝釈言成仏道願吾力所不及也吾
来至此故汝兩眼如本入云令還着給其太子者今
日釈迦如来是也拔眼醫師者今提婆是也

二十四表

繪師金以卅兩修善事

廿七

昔有一人繪師得請行伽陽城有妻子有二人是置
於家行去妻子一年侍之不見二年侍不来十二年
云得金卅兩還来於途中修善根所至道心俄發問
一人僧云此寺以何等重物修善問僧云金有二十
兩修云へり此繪師取出金獻佛供養僧空手還本宅時_上
妻悦云何物持来速子共食ヨト云男答云金三十兩_{二十五表}
有生々生々世々不失納藏云へり妻云藏何在藏云男
云還ツル路貴仏僧御坐已奉供養其実不失藏云時
妻腹立云冬夜糸寒汝今来思夏日温苦吾男令来
見待然經十二年来民如得王闇如得燃思已汝何
卅兩金十五兩作善根殘十五兩不持来乎其故為
養子共多借人物置也吾男来速返約束東汝来極无

情无益也云闢諍抑汝訴官申令処獄云妻訴檢非
違使處尤道理也云又男何問其亦件供養之由陳
申又是道理也乍二人極哀也云男令得乘馬女懸
无價宝珠脱衣令得又國王聞食此事垂哀讓国位
給云へり是則修善根諸天加護有加樣果報得也

二十五丁表

百廿歲僧事

廿八

大莊嚴論云舍衛国昔有一人僧歲百廿道心開發
詣佛所入道出家新僧五百弟子達仕此僧年老起
居苦取手足水利進不堪念煩吾入山投身思入深
山登高岩云吾非破戒仏奉仕思不堪只此身老无
心靜也云投身仏見之給以百福莊嚴御手受取此
僧預阿難尊者給具之修行令發道心言阿難具此
僧行濱側若能女一人死卧大虫目出入鼻々出入
口見之是如何問申暫待令云言又行女負大釜行
路有又自入其釜其釜為猛火燃其炎登空十丈斗_普
也此女能著自釜出自食肉又負釜行又返此行十
丈火柱有炎然上見之人形也有鉄臂虫百千万億
計取付此吸食見之過又大山高登二人敷草坐僧

二十六丁表

問阿難尊者云於通道見者何等尊者答云汝聞始死伏○人国王后也其落入海波打上伏大虫出入女

自容能思愛故成大虫喰自容也次負釜女人自煮

返自食肉何問尊者云其先生人從者也時主人僧

処遺物於道別之食之僧疑之汝若犯之間時女云

吾若取生々世々自我肉喰身成云依其誓九十一

劫間食自肉得果報又次有火柱人形逆頭成十丈

炎燃登何人云答云其現在取僧物失用寺常住油

者无量劫間成燃燒走也云又問山高大小何答云此

是汝先生間骨也成大野干作鴉烏鴉作蟻虻ヒ時所

積非骨乎況復無量劫間墮四惡趣受无量苦患時

骨思遣言其立所親親イ諸法无常證阿羅漢果云云

二一六丁表

和頼多事

廿九

昔有一人俗名和頼多父母大富恣世間自在也時

和頼多出家成仏御弟子思向父母乞出家暇父母

制之不許和頼多云吾出家不許飢死云三日臥不

食七日臥死云へり或人云此君已明日死ナン見此許

出家申時父母已許出家時和頼多起居食廳剃頭

二一七丁表

髮母取納詣仏前受戒云へり父母語子云汝詣仏所一

季三度可來親子契片時不見汝肝心難堪速可來

云送遣然一季待不來二年三年待不見已經十二

年斷三界惑成羅漢後白佛言約束東仕父母所罷申

佛言善哉時和頼多到父所乞食父出見之云何○

法師思樣來云打追逃去猶又還至門下女出見之

云今此立玉ヘルハ和頼多不御坐云答然下女還申立

僧已和頼多御座也時父母哭走出迎取之洗淨令

着我衣裳云然父母已金銀七宝積置和頼多前語

云汝留此可令領知之云へり次本妻端嚴美麗事如菩

薩奧出父母云汝見是人慕汝悲汝事碎心肝可思

留吾此賤宝可任汝意云へり時和頼多云吾賤不要又

妻不要雖然此賤令得吾云父母皆賤宝与子時和

頼多賤宝皆積車持去流恒伽河語云世人依此賤

墮三惡道然賤宝吾身敵也不受用云昇空現十八

通去又到山林於樹下敷柴座居時隣国王出似狩

給至其樹下一人臣奏云居此木下僧已竹馬時御

友達和羅漢多イ不候申国王仰云汝有何故出家シタルン問

給依三事出家也申大王云三事○何答云其三者上

二一八丁表

二一七丁表

王父母病能代給申不得代云○老人可死能代^上二者玉ヲト申其不得代云三者於地獄昔交衆生能代給申其不得代和頼多云其事思見之実依難堪吾レハ出家也申大王云汝昔思竹馬時友達也吾処有二一萬夫人其第一讓於汝又讓吾国王位速還俗玉フ云和頼多答云汝二萬夫人不要又千国土不要只吾成仏汝又一切衆生苦代皆令入仏道思計也云踊在虚空現十八神反而去云ヘリ

二一十八丁表

恒河側貧女事

卅

昔恒河カワノ側有貧女其辺有一神名恒河渴神此女人无子致信心此神祈子随分備供物吾^{五イ}六年間祈之不得十二年祈之不得此女人向神腹立云吾十二年間致志祈不令得子令懸屎尿糞穢燒失汝速追拂云時恒河渴神詫云吾上四天此由白天王○

四天王又白帝釈給又帝釈白大梵天王給大梵天王言可生人界天人有一人勸請彼下令宿彼女人腹言件天人語云吾生下界出家成羅漢云ヘリ梵天帝釈共言汝宿下賤之腹我等助成令出家滿彼恒河

二一十九丁表

渴神方願言ヘリト云時天天下宿彼女人腹過九月產其後此子可出家云母云祈求汝可蒙給仕之德故也更非本意言不許出家子云吾不許出家死云十丈穿火地落入更不燒死又恒河深四十里有落人不死以弓箭力杖欲死不死時此男思煩云觸吾所詮王后身吾即神被殺思入王宮凌礫后国王捕之令処罪加杖木不當国王恠之給時有一人臣此男前々事共念比奏之大王已赦免給サテ仏奉問此由仏

二一十九丁裏

説言汝聞此男過去无量却生女人時国王有八萬夫人有八万采女其夫人歌々行道一男來夫人歌加音歌国王驚捕此男急殺之時彼人白王此男夫人歌又野人歌不知只行路愚加音也指无咎申王依其辞免罪給乞免其罪人此男也依其果報生天得樂生天得不死果報也依本誓可成羅漢也言乞免一人咎善根已如斯况助多人罪乎

五百王子事

卅一

昔有国王養育五百人王子大王有御行此王子達立御前給時有一人僧於五百人子王^上達御前曳琴

(一一一)

(111)

渡時五百人王子一度出家受戒大王驚給恠此事
給時一人大臣奏大王王子達御前一人僧曳琴渡
其琴音云有漏諸法如幻化三界受樂如空雲云音
聞給出家給也申其曳琴僧今日釈迦如來也五百
人王子者今靈山五百羅漢也矣

三十一丁表

内裏火災事

災^イ20

卅二

内裏火災出来始從国王大臣諸公卿皆集取出諸
賤物時一人有僧振首撫頭咲悦意々々能々云時
大王進問此僧云汝有何故吾无量賤宝見焼失振
首撫頭謂悦意々々汝致此火災汝已有咎言時僧
答云大王依此賤可墮三惡道今日皆悉焼失故遁
三惡道給事喜故云悦意々々也国王聞僧語尤有
道理无咎言人不離惡道沈論六趣一塵貯貪愛故
也云

三十一丁裏

西国俗人事

卅三
昔西国有一人俗有母時異国軍起来數万兵國中
狩求有德者置留父母兄弟有云皆買留此男只一

卅四

人極貧買留无由捨買老母而至軍陳已吾方皆買
異国追取而行老母月夜朝暮悲子奉唱觀音名号
献燈明懷觀音御足願還吾子伏拜祈誓待二三月
不來老母之思実切也既異国豊業^{農イ}時至此男耕由
一人僧来問云汝何人男云吾耕田者也僧云汝此
所人歟又他国人歟男答云吾他国者也捨置老母
来此語本懷仲之僧云汝欲見其母否男答云朝夕
恋奉見思侍還定被殺思也云時僧云実汝聞吾是
觀音也汝母勸迫吾間吾汝迎來也汝捕吾袈裟端
言如教男捕袈裟端思間見吾身負觀音御皆即見
下吾母又有互母子見合容觀音利益不思議事知
云実觀音神力非安有如斯勝事乎又信心至所須
與間還本国開喜悦之眉者也

三十一丁裏

国王菓子事

昔有国王恒菓子興宴給殿守於池側見付菓子取
之奉大王王食此菓子給云自今已後只奉此菓子
若奉^不献此可行罪過^云而敢亦可見出无術仍至池
辺哭時俗人一出来云汝何哭問殿守答云昨日此

三十一丁裏

池側得一菓子取之奉国王食此給又奉此菓子若不奉可行死罪依之吾哭時俗人云吾是竜王也昨日菓子吾置也大王食給吾一駄奉之而今令聞吾イ仏法給云則奉一駄菓子吾不聞仏法七日内此国成大海云時国王大臣驚云從昔至今於此国仏法云事更不聞見若吾国内又他国仏法云物有速令得吾言更不能得之事而国有一人翁云未曾仏法云

三十三丁表

不見聞俱翁祖父傳云吾幼稚之時世佛法云物有聞申亦翁宅コソ奇異事候放光柱一本立是何問此昔仏法有時立柱也申傳侍奏時大王取其柱破之見給有二行文八齊戒文云王取之佛法信給シカハ十方放光利益衆生其國中仏法繁昌国家豊饒也云云

舍衛国勝義女事

卅五

昔舍衛国有九億家其中有一貧家勝義女云者夫婦共輪九億家乞物口活仏已為教化○等遭迦葉彼々々至其家乞物勝義女云雖聖世无意人哉吾廻此九億家乞物生養身也何來吾許乞物乎更不可得其物云三十三丁裏ヘリ時迦葉尊者云三十三丁裏只有物令得給云更令得

无物答迦葉云猶一塵也令得矣時勝義女呵責夫

云汝何无心乎供養聖云三十三丁表ヘリ抑汝吾中年比麻衣一有

之以之供養云聖云三十三丁表ヘリ夫答云汝極愚也此衣只一也吾

出時汝裸也汝出則吾又裸也已斷汝与吾命云妻

云拙哉汝此身无常也養育終可滅吾貧窮苦豈非

先生報乎吾此藤衣施此聖云能々誘夫即脫衣疊

疊イ

以語尊者去聖塞目吾赤裸也勿見吾云恥迦葉塞

目不見之女人近寄此衣与迦葉々々取衣入鉢呪

願還佛所奉佛此由勲奉語仏給時仏放光自東方

三十三丁表

始奉誦十方佛給諸佛皆集給而供呪願讚歎之時

波斯匿王佛光驚詣佛前目連尊者問光瑞旨仏勝

義女根本語給大王流淚脫自着給衣裳勝義夫妻

為遣其家又宣旨云又吾国始五百中国又小国官

物皆悉積買勝義女家其納取可來云云勝義已大王

為揔大主恣天下云三十三丁表ヘリ

深山里俗人事

卅六

昔昔深山里有一人俗具容顏美麗妻夫婦共年比互過時国王求能女天下作勅宣求給更不能得能女

時一人有臣下奏其国山里能女侍奏国王廳^{下宣}
旨令至件山里俗人間云爰人不來處也何人云使者^{佛イ}

三十三表

答云汝家有美麗女奉国王吾等宣旨使也更不可

澁惜云時俗人云吾住此山无所犯農業勤不致有

何故可召取乎使者答云汝雖无所犯住王地何可

背勅宣云擲取去即惜夫婦別而去其女王宮將詣

王見此女給喜居九重宮終日竟夜不早朝給但經

日月此后更不快敢不咲給大王思惱作管絃伎樂

緩歌穩舞見此不咲作比翼連枝之契猶冷思仍大

王族問云汝民如得王毒虵如入王宮有何故戲咲

意无乎后答云君天下主御座劣吾下賤野人夫給

三十四丁表

已彼夫口氣香勝含梅旦沈水国王申劣吾本賤夫

給依之不咲言時大王又可求其夫下宣旨給已求

得之將詣王宮后云今吾夫參爰勾聞言即詣王宮

一理問梅旦沈水香滿大王將此俗參佛前奉問佛

有何故此俗居一里間者香氣滿願仏説其因由仏

答言此俗先生樵夫也荷薪出山時雨降シカハ路辺有

破寺其緣暫居止内有一人僧燒香讀經見之一念浦

山數僧哉念依其果報今生已成口氣香身也當來

必可謂香身佛言人燒香見之浦山シト思スラ尚佛受
記給也何況身功德乎

三十四表

人天蓋事

卅七

昔或人恒具天蓋見人奇之奉問佛々説言此人先
生々食家下賤也為乞食口活居住路辺于時雨降

其前人行過留旧破笠施此人依是因緣依今生得果

報云

摩竭陁国大王五百人子事

〔卅八〕²¹

昔摩竭陁国大王養育五百人王子成人各々施威
勢恣世或時自他国軍起来已欲打取吾国々王遣

数万騎軍兵相討已負還欲打取時王宮騷動逃去

給時五百人王子其太郎云焔枕太子色黒如墨髮

赤如火燃形見惡如鬼仍方丈部屋造卧置人不見

此太子聞王宮騷問乳母云吾家騷動有何事云へり答

云君不知給哉他国軍起来欲打取吾国大王々子

他国逃去給ハントス君何方流浪給云燼枕太子云事不

有事有何速吾不告吾只今追還言起居給乳母此

三十五丁表

由大王申給王意不入給非賢事給時太子出父大王御前吾速此軍追返申給召人言吾祖父轉輪聖王御弓在此内裏武家白速持来臣家即乞求奉太子々々喜取弓懸絃々打給其声已聞四十里喻如雷振此弓大箭一手又宝螺一付脇只一人出王宮

三十五丁表

給父大王母后共哭留之給言入軍陣者帰来事方之一也形雖見惡汝吾子也速可留教訓給只許吾給云速進出給已至軍陳前先吹螺給一兩度也數万騎軍兵聞螺声皆顛倒又作弓絃打驚此声万九逃去太子言已弓絃打已以如斯况放一失千々万々人残乎言怨敵皆退散无敢敵者太子還王宮給大王歡喜言吾養育五百人子不打返此軍只此子一人吾子也云へり時太子歳五十歳也始令嫁娘又大王思給下人尚不近何況好人吾国人皆是知形見思乞求他国王娘令合思然晝不見思夜隱令合然間経日月後大王思吾○百人雖有ヨメ不見也吾設五

三十六丁表

千戴中花翫也或聞虫音詠吟或誦詩賦延年或歌々極戲父王卷上玉簾母后養水帳格還被物祿物如雨如雲天下見物也何事勝此乎余五百人婦達妬燼枕太子后咲之云何彼君何一人延年不給云又合婦云夫客儀云太子妻聞此事夜中還本国夜明太子入深山投身時樹神来受取之置平地帝釈来授一王給也又云此王納髮中持給引賛作端嚴微妙之身也太子云我授玉給何人吾愚癡故无覺哀若佛来給若仏即若坐吾示先世果報時帝釈答云吾是帝釈也示汝先世因汝前生貧人子也乞食来乞油時汝父清油施仏云汝清油惜置不淨油一夕奉仏依其功德父生国王汝生王子而不淨油奉佛依其報生形見惡身吾即帝釈也汝髮懸玉言立去給太子放光端嚴无双也時王宮人尋跡来相值太子云若此仏歟若吾君太子歟申太子云吾汝主也太子思吾放光玉所為云取玉置外成本身又懸玉端正放光太子即還王宮給父王出向歡喜踊躍悦涙身餘経数日太子行本妻所具千乘万騎時其舅国王悦之賀讓国位太子具妻還吾国給尔時又父

三十六丁裏

三十七丁表

王
徳サハ如サ王讓国位已成兩國大王恣天下一夕油
以奉仏功德サヘ如斯也²²
云

大臣子事

卅九

昔有一人大臣有一子後父極貧從本无業无所憑
只思得事吾学盜路返世思所詮吾先不行小人家
行國王所盜賄賤物已思入王宮王宮物甚多取軍
之置間咽顛倒側灰水有捨之取食吞思吾可食如斯
物只其吉事思置物還去時大王立側見此言汝何

三十七表

置物去云ヘリ即答云吾雖貧者意直若食件灰水等意
見不取此賤有思答時大王哀愍垂給即父大臣位
成給ヘリ^云

玄遙紫丹事

四十

昔有國王有二人后妃一名玄遙二名紫丹所從女
自予還来云我聞至貴処法其甚深不可得座居説
云ヘリ后云今俄无高座只説言女言君居上給吾居下
説法為君有咎更不可説云后云我許五百采女有
各衣一領充²³脱²³疊為座云シカハ各脱衣重置此女上其

三十八表

上令説法²⁴
后并五百采女聞此文生天上得羅
漢果云ヘリ

以千兩金買一行文事

四十一

昔有一人俗以千兩金買智恵云更无賣云人行天
竺買思家有若妻置之行數日也吾留守母此妻能
々守護給云置天竺行去過流沙葱嶺渡百万里波
濤至天竺以千兩金置得一行偈其文云長慮諦思
惟不應率²⁵妬行今日雖不用後當有用特文買得此
文已還本國到家竊見我妻男卧仍欲切頸猶還三
度此度切思又退還思惟吾渡百万里波濤以千兩
金買得文其文既云長慮諦思惟不應率妬行云ス吾
金從不可成思暫立思惟間見起去我母着烏帽子
成俗人卧見之振首偈文弥信歡喜ス云ヘリ

三十八表

鷹放鴝事

四十二

昔鴝被取鷹時鴝本誼鳴云惜哉捨吾家死云時鷹²⁶
放之鴝至本家塊許惡口鷹罵言時鷹起噴恚又欲
取時鴝逃入土穴塊角衝胸死鷹有恩雖免鴝不知

此アイワクヘシ

此下八上有^{ヘシ}

○鴝問云汝家何云答彼由畝塊下也云此鳥諠仍鷹○

恩罵鴝鴝自死蒙恩不知其恩者如斯花嚴經云不知恩者逢横死文此意也

三十九表

波羅奈国貧女事

四十三 昔波羅奈国有一人貧女色形見惡事如鬼神女思

吾先世不修善根今世形惡又貧窮身也今世又不

修善根後世亦後如是吾何修善思更无術所詮賣

吾身奉供養仏陀^釋思定行步更无買人爰有一貧家

買云賣身與地音買云出々女已奉賣云亦家主問

云買汝身兎角^セニ汝云何云^{ヘリ}○答云口奉賣身可任女^上

御意答抑我身有痛年久而食人温肉可愈^云抑買

汝其身剥皮截肉欲吸血也女答云兎角御意次第

也云時錢三文買女取錢云三日間免暇給乞已免

此女登山寺奉佛僧遂供養一人僧誦經女聞此偈

還主家洗清身至主前卧時病人起拳即取釵割切

其身而先問女云抑汝日来成何事云^{ヘリ}女答云吾前

生心拙不修善根今生貧女今世不修善生々世、

々又如此仍錢三文身交易奉供養仏僧也答病人

三十九裏

屈太事

四十四 昔有屈太云人至地獄有二人獄率不慮外屈太到

地獄釜問獄率云此釜何料云獄率云此釜屈太云

人可墮釜也云屈太云吾コソ其然幾燒問獄率答云

罪人可墮釜无量劫間被燒此釜屈太哭誓云若如

吾極罪而可墮此釜者願吾一人同代其身苦此釜

經劫數閻魔獄率蒙呵責贅鉄²⁵丸只吾一人答之

令彼生天令入佛道誓躍入釜中地獄釜忽破蓮花

開ソト云

熱^イ

四十裏

四十裏

女人^レ々々断无明之惑證初果入仏道云^{ヘリ}

若有至心聽常得无量樂文女說此文病人忽病愈

令聞云^{ヘリ}時女以偈令聞云如來證涅槃永断於生死

說甚深无量法門給云病人云而汝持其文歟語吾

一子慈悲人也云病人云然何故言ソト問女答云仏

給見者歛喜无厭德備難化能化住願一切衆生垂

云抑佛者何様者答云仏申具三十二相八十種好

田舎僧妻事

四十五 昔田舎有一人僧具美麗妻爾時國王求天下佳女

給有人白大王其國其卿端嚴美麗女侍大王悅之

即呼給又國王云人夫婦期百年契相分哉若召女

定男交山野先召取夫可被罪歟時國王使至彼僧

処讀宣旨僧云我无所犯有何故可召云へり不云將王

宮詣大王見此僧給刑之无指咎吾可追処有之思

食言汝從此丑寅方四十里行有池其○有四種蓮池^上

花七日内取來賜褒美抑也時此僧受國王仰婦宅

其妻乞食物不食居女問云有何事不食也答云有

國王宣旨即語其宣旨云時妻云只可食云へり後女云

如聞彼處鬼神多有也池大菴卷花茎惜花也行人

一人无還事悲哉汝与吾乍生欲離千年契約從為

鬼神被奪吾家独殘留有何益吾与汝共死哭時夫

誘云千年後吾代汝身思シカトモ已遇王難已違其本意^イ

何乍兩人死无益猶此留此時女人訓云其路有諸

鬼若問可益吾娑婆世界釈迦牟尼仏御弟子也可

習
答²⁷□何文云南无帰依佛南无帰依○帰依僧法南無^{○上}

持此経答訓畏七日粮与夫已出行夫見返妻今見

文獻
四十一丁裏

(三八)

送夫悲別互不行遣然非可留步行漸已四日云至

門守所鬼悅欲喰先問云汝何來ソト問答云吾娑婆

世界釈迦牟尼佛御弟子也云鬼云吾爰經數千歳

未曾聞釈迦牟尼佛云名吾今始聞佛御名離業道

轉鬼神身仍免汝是奥又有鬼又如是可云訓放又

行如言有鬼又喜欲喰汝抑何人問如前答鬼云持

何法門云即誦南无帰依佛南无帰依法南无帰依

僧時喜云吾過无量劫未聞誦三帰法門喜相逢

汝聞法門轉鬼身生天汝是奥行者大毒蛇不知善

惡定吞害汝暫在此取件花令得汝云即取四種蓮

花授云國王仰七日云へり汝出宅今五日也殘日不幾^{四十一丁裏}

汝乘吾背云シカハ已乘即至國王門下置去此僧以蓮

花奉大王々々奇之問給如上片片端懃語申大王

聞此事給甚深歛喜云吾劣鬼神害汝取妻思鬼勝

吾助汝命刺与蓮花返吾永汝并免縁女速還可受

持三帰法門言云へり

法性寺住僧事

此回个審也異本可見

四十六 昔法性寺有上座僧其寺修理料鐵三廷借取不返

死後託人云吾此寺鐵三延借用不出死依之堂戊
亥角柱臂木中蛇有被迫縛如板相構取出修善根
云へり一塵用仏物者已受如斯生云へり

〔四十二〕裏

波羅奈国女拔眼事

四十七 昔波羅奈国有一人俗惡逆不知仏法妻云普好而
雖有道心随夫或時不慮外遇一人僧竊法花經十
余行讀得夫聞此事云和御前業コソ極責云出去返
来云吾道行極若能女死卧ツルカ目極告穿取和御前
眼極无愛見惡拔贅云へり妻思吾今日死事一定也被
拔取眼不可生哭乳母云サレハコソ和君此経讀給ソト云シカハ
遂従成給云吟女人云此身无常身也惜遂可死従
朽損地穢同法花経贅吾身云乳母共啼合然間夫

〔四十三〕表

居客殿音恠呼出妻々思家内不可隠上天不可入
地雖逃不可逃吾今死思 今參許答步出夫取妻
伏膝上拔眼取其身引捨路頭側人破薦筵令得是
敷道辻○過卅日一人僧来問云汝何人何无眼卧々
云女件由始語僧聞此由山寺將昇九十日間養育
終 此女人夏給夢見吾讀経妙法二字作日月空下入

吾眼目見夢覺見上欲界六天様々勝妙樂如見掌
中見徹也下閻浮提二万由旬見透无残等活黑繩
乃至无間地獄最底如見掌中物語僧喜云汝已法
花経十余行功力依得其報云へり

〔四十三〕裏

俗人国王被免頸事

四十八 昔有国王一人臣致大咎仍王欲取其人頸此人王
言免七日暇給²⁸〔申乞〕免給此人還家一心奉帰依三
宝七日朝詣国王所時大王勇猛人以令取其首此
人現仏相已取首不能取大王又放五百醉象欲踏
害此人放金色光仏成手指指出五師子相象速逃去
仍大王免此人咎令信佛法僧給云へり

越前国猿経書事

四十九 昔越前国佐伽郡普廣寺住僧書法花経時猕猴一
疋来僧前良久居僧問云汝若欲書此経云猕猴領
之汝若然求殻来云猕猴去経一兩日剥木皮持来
時此僧吾書経指置此木皮料紙先書猿猕猴所望経
猕猴喜之日々入山穿野老穿山芋取菓子供養此

〔四十四〕表

僧已五卷書了次日午時施主獼猴不來僧恠求山峰岩畔芋掘穴指入頸死 僧流淚勸訪之還其獼猴經力故生天三年其国守護成有喜瑞故先至彼寺遇彼僧陳語昔本懷彼僧年九十余也僧与守護俱哭取出件經見朽損タリ^下云ヘリ此本經書讀之又千部法花經書供養畜生已如是況於人間乎

貧女地藏菩薩仕事

〔四十四表〕

五十
昔有一人貧女為農業恒取田殖力手常食取用返口活先以其上分朝夕奉地藏菩薩然間田主廿四人一日可殖由催促貧女依有道理此事雖背女其日晚起炊飲如例奉地藏菩薩^并返居云今日可殖田人廿余人也吾但二人也何方打追思悲先世吾造何業得此果報願十方三宝相助吾今日追給申哭吾一人償之思然間自然人々來出一時二時間殖田了還家女居思今日廿余人為其饗事恐思隱居時廿余人各來或白米一斗或一二斗或四五斗志収還了各々云殖償所作速事喜還了女思吾今日多人欲迫打事思々外有喜思又炊飲上分奉地藏菩薩

〔四十五表〕

薩奉見御身軀成土侶立給爰地藏菩薩得貧女志給一時殖廿人余田給云事時貧女流喜淚五体投地奉仰云ヘリ

貧女吉祥天女仕事

五十一
昔有一人貧女惹野造柴廬居住口活依難過先世果報恨拙事卧其夜夢僧一人來教云汝可仕吉祥天女夢覺後逢人乞一枚紙書願吉祥天女御身軀礼拜給數日菴辺有牛不去里村觸此事治飼更牛主云者不出成農業時村里人借用此牛以價為ス先自余牛二二段一日所作此牛一日七八段耕作仍人々借此牛倍其價又此牛至処田畠²⁹ハ生榮事餘耕作十倍依之其聞人々只此牛足蹈入サセント競來借之時此貧女成福人所從眷属數万人出來任意被使也此牛三年間能々連日叶事无極年終至卧死此女人流淚哭悲還家中書紙奉見吉祥天女俄破血付是知吉祥天女成牛給云事仍為其牛報恩酬德云ヘリ

〔四十五表〕

誦經延命事

五十二 昔有一人翁欲修行仏法家出杖金三百兩入簍持

或相人見此翁過七日可死我具此翁取金思相人

語翁云汝貴發道心修行給吾仏法修行志深汝共

修行云へり翁具相人六日云思外修人小善根処至此

金取出五十兩誦經已七日命延相人思吾還吾家

有妻子極不審思惟亦思返猶同七日具取金可還

思共具五日云又修善根処至又此金以五十兩誦

經翁又三年命延其時相人云吾汝共仏法修行思

事極辱カシ還去云へり時翁云何不經幾程違約速給若

程イ

自无便揖見給実非本意云時相人云実吾非發堅

固道心推察汝杖三百兩金入持而汝七日可死相

有之而初經誦処已七日命延吾還思猶今七日具

可死取金還思此度誦經又三年命延猶雖具行亦

後如是仍欲還而翁云汝依金此吾具給ケリサテハ今吾

殺害金不取給事其極喜也以此金佛法修行便セント

思而賤速可殺命不如有本意令此金云殘金百兩

令得相人其翁翁積迦牟尼佛也其相人當來弥勒

仏也云へり

五十三 昔南天竺濱有五百人鉤人朝夕以殺生業過一生

然五日間伴魚不被鉤六日云鉤得一大魚其身大

具十七人首鉤人見之驚逃去尔時釈尊在鷲峰山

見彼魚速其魚処飛行給佛魚問云汝有何故身極

大具十七首魚答云吾先生々人所知有作僧仍隨

分得人請登高座說法其高座側僧有十七人吾即

問汝等吾說法貴聞問シニチサ兎角不聞得云時吾汝

等畜生哉何說法貴不聞思云恥依其業九十一劫

間得此果報而其業漸尽禽令此鉤也吾令恥僧業

已盡又可學經教結縁切有之佛證知給申佛過現

未事能々知給人問此事為令聞知此大魚過去本

源令明給也其大魚并五百人鉤人共奉見仏罪障

消滅生天上其魚者當來弥勒佛也五百人鉤人者

今五百阿羅漢人也云へり

南天竺五百人鉤人事

鳩唎拏持經者事

五十四 昔有唎拏国有一人俗後母後出家入山修行佛法

成持經者過年來或時大山府君來而聞經時持經

(四二)

者問云汝何人乎答云吾是大山府君也為聞汝經
來云へり持經者又問汝サテ獄衆コソ有ナン吾母在所知給

問答云在等活地獄持經者云而汝吾將行給云大

山府君以通力具持經者至等活也獄令見其母々

火灰如非人形僅聞其声云此地獄苦患難堪從首

徹骨髓從髓徹跌難堪事无極持經者問云吾母何

問給答云此地獄苦塵計非苦別女已後至今日吾

子世争有思意突徹骨髓破首如也此地獄苦只千

分一分不及云子持經者聞此語留其地獄誦經母

并其獄中无数億衆人皆共離苦生淨刹云へり

〔四十八丁表〕

天竺賢直事

五十五 昔有一人法師盜人也云賢直凡天下所有人物取

用不被知人人名也而經數年然国王御王一果已

盜去諸公卿大臣集尋求不能得一人臣下有奏曰

此玉即賢直盜取申時国王云賢直已諸野人也來

吾所不可取王言時臣家亦白云猶賢直召可被罪

彼法師打不打又射不射者也只 和誘可取申 時

大王作勅宣給使者已至云汝已住王地速可隨国

〔四十八丁裏〕

王仰云搦取將詣大王御覽不宛罪但吞一提猶已 酒イ

醉卧仍令着天冠手卷入急造作天上目出度樣喻

如喜見城随王女采女等極奏麗嚴好首被天冠徹

妙神妙賢直前令得醉覺見吾身已天上人形也居

処有采女捻不異天上作法時奇思問件采女等云

吾身已人界野人也睡眠間生天上汝等何云采、

女等答云汝已中天竺盜人賢直也而大王御玉盜

取依生天上也云時賢直恠思盜生天上目出得果

報然盜可有事有ナント思ヘルカ又打還思吾講演法花經

所行聞天上人目出度講師言シカハ猶恠思見件采女

各目度仍猶人有謀ナリケリト思申吾更不盜取国王御

玉君猶疑思食此天上目出嚴取返給申時大王聞

此事言賢直更不盜吾王言其天上莊嚴等并采女

眷属皆共永免賢直也云へり

〔四十九丁表〕

獵師取鷹事

五十六 昔有一人獵師取五百鷹入籠養之日々一宛殺食

之其中有一鷹思吾飛行四方事任意極天尽地得

自在而被込籠内暗天地已入死門不知今明日思

〔四十九丁裏〕

之此又先生業因所致也雖得食此身更不可過明日命願十方三宝相助吾給思惟不食令經數日然間身疲細成仍自箴目得出事飛行事自在事願力故如本也吾還本箴鳥共許欲語告此此理速飛至殘鳥共告云汝等極愚也食物為助命也汝等止食即奉念十方三宝如吾出箴中存命得飛行自在教シカハ鳥共隨其教皆出箴如本得飛行自在其教一鷹今釈迦牟尼仏也受教鷹者今五百阿羅漢也云へり

林間録云潭州道吾山有湫 北人呼水池為湫毒

〔五十丁表〕

竜所蟄随業觸波必雷雨連日過者不敢喘慈明与泉大道同游泉牽其衣曰同可諮慈明掣時經去泉解衣躍入霹靂隨至腥風吹雨林木掀播慈明蹲草中大驚意泉死矣須臾晴齊忽別頸出波間笑呼曰

因³²

又掌衣坐融峯頂有大蟒繞盤之泉解衣帶縛其腰中夜不見遽明策杖偏山尋之帶縛梧松之上盖松妖也誠是无為閑道人家風如斯豈是凡愚之所及耶

寛永第十^{癸酉} 四月四日 宮谷談所書之耳

〔五十丁裏〕

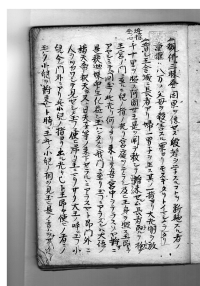
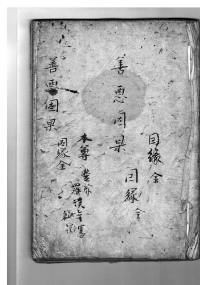
解説及び本文の注

1 小林本『百因縁集』は電子化資料（PDFファイル）が存在している。下記のアドレスからダウンロード可能である。 <http://www.nulnagoya-u.ac.jp/cgi-bin/wakan/wacgi?i337>（二〇一九年十二月確認）。

2 中根千絵『今昔物語集の表現と背景』所収（二〇〇〇年、三弥井書店）。

3 中根千絵「名古屋大学蔵本『百因縁集』の成立圈（目黒将史編『資料学の現在（シリーズ日本文学の展望を拓く5）』所収。二〇一七年、笠間書院）。

4 和田恭幸「説教と通俗仏書」（『國文學』第四十九巻五号所収。二〇〇四年、學燈社）。竹ヶ原も『善悪因果』と名付けられた肉筆本を所有している。表紙に「豊前、後半部に慶応元年の記入が見えており、江戸末期に作成された説教資料と考えられる。本文において紹介した絵師の説話も収録されており、こちらは『大智度論』を訓読した上で細部に改変が加えられた本文となっている。



※上…表紙 下…二丁表 竹ヶ原架蔵本

5 後小路薫「増訂近世勸化本刊行略年表」(『國文學』第四十九卷五号所収。二〇〇四年、學燈社)。同表に依れば、本書が書写された寛永十年以前の年記を持つ勸化本は四冊である。

6 土屋賢泰「二 日蓮宗の小西・宮谷・細草檀林」(大網白浜町史編さん委員会編『大網白浜町史』第三章第五節所収。一九八六年、大網白浜町)。

7 前出、注3中根論文。

8 前出、注3中根論文。

9 佐原作美「三宝感応要略録と今昔物語集について」(『駒澤国文』十二収録。一九七五年、駒澤大学文学部国文学研究室)。

10 底本 。経題や護符の頭に記される形(中村元『仏教語大辞典』「以字点」、一九七五年、東京書籍、須藤隆仙『世界宗教用語大事典』「以字点」、二〇〇四年、新人物往来

社、参照)。

11 底本 。「録」の誤記か。底本に従い「縁」とする。

12 底本 。裏から「本通寺什物」の字が見える。本通寺については特定できず。朱印の文字を墨で塗り消したと思われる。

13 底本 。虫損か。残画から「尺廻」とした。

14 底本 。判読不能のため「□」とした。

15 底本 。「妬」の異構か。傍注に従い「妬」とした。

16 底本 。第七話の話数表示は、他の話数表示と異なり一字下がつている。

17 底本 。「或」としたが、あるいは「域」の省画または誤記で、「サカヒ」(『字鏡集』)と読ませるか。

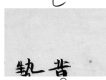
18 十七話本文欠。書写時の欠落か、元となった資料に存在

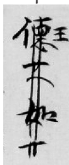
していなかったのかどうかは特定できず。底本目次には「長者家人物員事」との題が見える。

19 底本 。誤字を擦り消したか。

20 底本 。異本注記に「災」の異体字「灾」。本稿では一部の異体字を通行の字体に改めているため、「災」とした。

21 本文、話数表記無し



22 底本 。誤写か。

23 底本 。残画と本文の内容から「脱疊」とした。

24 底本 。一文字目の「百」と四文字目の「也」以外、判読困難。

25 底本 。「鉄」の異構あるいは誤記か。文意から「鉄」

とした。「熱鉄丸」の文は『長阿含經』第十九をはじめとした經典や、『経律異相』といった仏書にも見える。

26 ケシアト有り。

27 底本 。判読不能。頭注に見える「習」の誤記か。

28 底本 。残画から「申乞」とした。

29 底本 。「畠」の欠画＋片仮名の「ハ」か。

30 底本に隣の行にかかる擦り消し有り。



「此」

とした。

31 底本 。虫損か。仮に「而」とした。傍注は判読不能。

32 底本 。『大漢和辞典』二二九九に「クワ／ワ」とし

て「船を引く聲・かけこゑ・又、力を出す聲」とある。

（文責…竹ヶ原）

